

りと、庫裏梁間の巨木今に儼として當時日明上人の剛勇物語を傳へ居れり。

(二) 檀信徒の諸團體

第十八世日誠上人代天保、嘉永の頃までは題目講、和讚講、女人講等と稱する團體ありしが安政の頃に至り漸次發展して大乘講、一乘講、大乘女人講等と改稱し活躍せり、明治三十年頃に至り諸團體統一の機運を促し大同團結して顯本講、顯本女人講と改稱したり、是より先宗學研究の會起り碩學原勝外先生指導の下に古川平七 吉田榮吉 宮田元治等の諸氏熱心唱導せり、次て青年層の擡頭と爲り明治三十一年中村謙藏 島川常麿 阿部秀三等主唱して顯正會を創立し成島泰行 秋葉顯正師等の來援を得て大に氣勢を揚げ或は日曜學校を開設して青少年の訓育に従事する等開宗六百五十年記念の前後に於てその運動甚だ見るべきものありき。

大正に入り富田小一郎氏等地明會を起し大正十一年に至り富田小一郎 中村謙藏 關壯二等發企の下に日蓮主義研究會を創立次て昭和六年七月に至り南部日實、小林茂雄 中村謙藏 谷山正國主唱の下に立正會を組織して立正主義を強調し又立正婦人會、立正青年會等起り時代應化の躍進を見以て今日に到れり。

(四) 庭 園

當山庭園は本堂西側と客殿北面とに位置し後方丘陵斜地とを併せ造られ其規模大ならざるも古來名園として名あり、その樹木泉石の布置桃山時代の築庭法に則り且種類の異りたる躑躅の老木多く斯道の名家に鑑賞せらる、曾て丘上に蝦夷松の巨木あり長幹亭々この地方稀に見る珍種に屬し、寛政年間南部利敬公幕命に依り北海警備出陣の際出動したる檀家の一人彼地より稚樹を持來り植付たるものにし

て國防奉仕の榮譽ある記念木たりしが、大正の中頃誤つて伐採の厄に遭ひ可惜記念樹を失ひたり、又その一角に蟠屈する枉谷樹は當山開創己來の歴史を物語るものゝ如く巨幹全庭を壓するの趣あり、先年盛岡市より要保存名木に指定せられたり。

蟠屈ばんくつ＝盤屈。うねりまがる。

(五) 盛岡和讃

明治維新以前和讃講時代の創作ならん從來法華和讃又は歌題目と稱し一種獨特の歌調を帯びたる頌歌あり、他教徒間に流布する和讃或は御詠歌と稱するものとは斷然その選を異にし頗る優雅典麗の歌調なるが篤信婦人村田いま（以満）子女史更に之が改善に心を碎き幾多の苦心を累ね漸く現今の如き音律莊重なる獨特の謠態を完成したり、則ち隊員は太鼓に合し宗祖開祖の御詠等を歌頌し終りに玄題二唱するを一聯とする仕組にして其聲樂餘韻眞に逼るものあり、その歌詞は宗祖開祖の御詠を主とし他の讃歌を合し曾て野口日主上人 本多日生上人 笹川日堂上人等數度の改訂を経てその數百數十首に達せり、曾て笹川日堂上人明治四十三年の春顯本法華讃歌集として第一輯の出版ありたり。

(六) 山内著名の墓碑

利直公御孫女 貞了院殿 御墓

同 青蓮院殿 御墓

勤王志士 中島源藏常明之墓

不識院殿上杉謙信法印之墓

爲師恩報謝見坊景兼建之

兵學家 上山 半左エ門 白井 直右エ門